

行政調査報告書「市民文教常任委員会」

令和7年7月28日～30日

■岡山県岡山市 『岡山芸術創造劇場ハレノワについて』

岡山芸術創造劇場ハレノワは、旧岡山市市民会館と旧岡山市立市民文化ホールの老朽化・閉館に伴い、両施設を統廃合する形で新設された。「魅せる」「集う」「つくる」というコンセプトのもと、大中小の劇場をはじめ、アートサロン、練習室及びギャラリーなどの施設を有している。貸館事業だけでなく、イベント運営体制も生まれ、文化芸術に親しむ市民・アーティストを育てるとともに、まちの賑わい創出につなげている。

各劇場・施設の目的を明確にし、利用者目線で細部にまで配慮がされている。今後の公共施設のあり方を考えていく上で、大変参考になった。



■山口県下関市 『下関市立歴史博物館について』



下関市立歴史博物館は、旧博物館の老朽化、狭あい化、空調機器の未設置などの理由から、平成28年に開館した施設である。壇ノ浦の戦いをはじめ、下関の歴史や文化に関連するさまざまな資料が展示されており、県外からも多くの観光客が訪れている。展示方法は、分かりやすいものとなるよう丁寧に来館者の声を聞き、常に改善することを意識していた。また、子どもや学生への地域

の歴史教育に力を入れており、出前講座も多く行っている。本市においても、取り入れるとよい事例が多くあると感じた。

■大阪府寝屋川市 『寝屋川市立望が丘小学校・中学校について』

寝屋川市は、平成17年度から義務教育9年間を見通した小中一貫教育を進めている。また、公共施設の老朽化、人口減少による小規模化も視野に入れ、寝屋川市初となる施設一体型小中一貫校「望が丘小学校・中学校」を令和6年4月に開校した。開放できる教室、ゆとりある廊下やフリースペースなどを活用し、クラスや学年の枠にとらわれない活動や子どもたちの居場所づくりを進めている。異学年交流による成長や、中1ギャップが軽減され、不登校の抑止につながるという効果もある。



本市においても同様の課題を考えていく中で、参考にしたいと感じた。